

木と生きる幸福



2015年3月期 業績総括 及び 事業方針



2015年5月12日 住友林業株式会社

代表取締役社長 市川 晃

目次

1.事業環境について	2ページ
2.2015年3月期 実績	3ページ
3.2016年3月期 通期予想	4ページ
4.中期目標について	5ページ
5.国内事業について① 主力事業	6ページ
6.国内事業について② 成長事業	7ページ
7.海外事業について	8ページ
8.株主還元について	9ページ

事業環境

国内景気は緩やかな回復傾向であり、消費マインドも戻りつつある

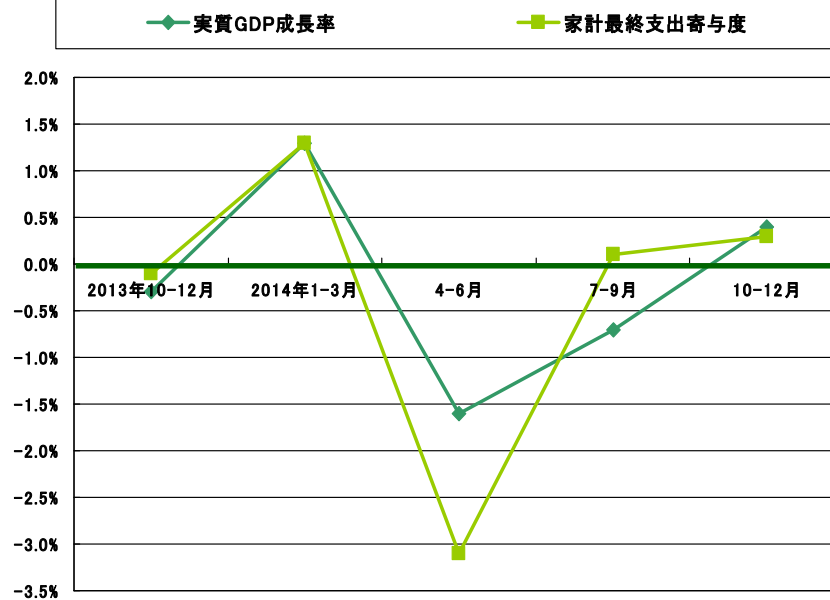
国内

- 国内景気は消費税増税により、個人消費が一旦停滞したものの、賃金上昇トレンド、原油安等を背景に消費者マインドに好転の兆し。
- 国内住宅市場は、お客様の動きは鈍い。ただし、金利の底打ち感や、政府による各種支援策等の影響等で、お客様の「様子見」姿勢に変化の可能性あり。
- 16/3期の着工総数は89万戸、持家は29万戸と予想。

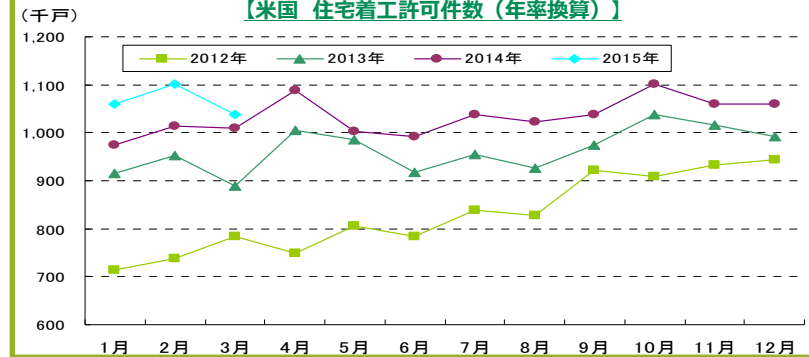
海外

- 米国は金融政策等の動向等に注視が必要であるが、景気は底堅く推移すると予想。
- 欧州はギリシャ問題等のリスクがあるものの、景気は緩やかに回復傾向。
- 豪州は、失業率の高止まり等が懸念であるが、住宅投資は堅調。

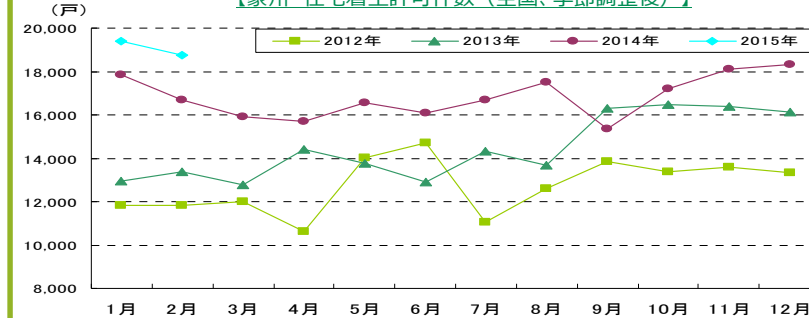
【実質GDP成長率（季節調整値）および家計最終支出の対実質GDP成長率寄与度（季節調整値）】



【米国 住宅着工許可件数（年率換算）】



【豪州 住宅着工許可件数（全国、季節調整後）】



2015年3月期実績

海外事業の伸長により全体業績は堅調に推移した一方、
国内戸建注文住宅の受注低迷等の課題が残った

2015年3月期実績

(単位:億円)

(連結)	14/3期	15/3期	前期比
売上高	9,730	9,973	+2.5%
営業利益	334	340	+1.7%
経常利益	336	364	+8.5%
当期純利益	225	186	△17.6%

退職給付に係る
数理差異

△10

△3

-

- 消費増税に伴う反動減の影響が想定以上に長引き、木材建材事業と住宅事業は苦戦。
- 一方、海外事業は、Henley社の通期寄与や、海外住宅事業のM&A等の効果により大幅に業績を伸ばした。
- 海外事業セグメントの伸張が全体業績を押し上げ、全体業績は、特殊要因があった当期純利益を除き、全て14/3期を上回った。
- 国内における戸建注文住宅の受注低迷、リフォーム事業の停滞など課題も残った。

2016年3月期 通期予想

売上高は初の1兆円台、
経常利益は3期連続で300億円以上を確保

2016年3月期計画

(単位:億円)

(連結)	15/3期	16/3期計画	前期比
売上高	9,973	10,620	+6.5%
営業利益	340	350	+3.0%
経常利益	364	365	+0.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	186	195	+5.0%

退職給付に係る 数理差異	△3	-	-
-----------------	----	---	---

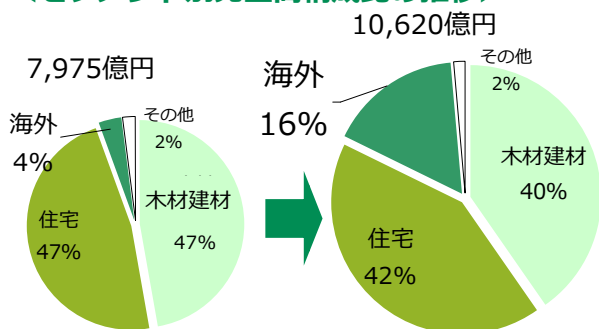
- 売上高1兆円、3期連続の経常利益300億円以上の確保に向けて、住宅事業は15/3期並みの業績を確保し、木材建材事業は収益の底上げを図り、海外事業はさらに伸ばす。
- 住宅事業は、戸建注文住宅の販売減少を、リフォーム事業、賃貸住宅事業等の拡大で補う。
- 海外事業は、好調な米国住宅事業を中心に、更に業績を伸ばす。
- 木化事業や生活サービス事業など拡大市場における事業にも注力。

中期目標について

中期目標を確実に達成し、次のステップへ

- 16/3期は現在の中期目標「売上高1兆円、経常利益300億円を安定的に上回る体制の構築」の最終年度。
- これまでの取り組みで海外事業の業績が伸長し、事業ポートフォリオが変化。
- 中期目標はあくまで1つの通過点。当社グループは常に進化し、持続的な成長ができる企業グループを目指す。

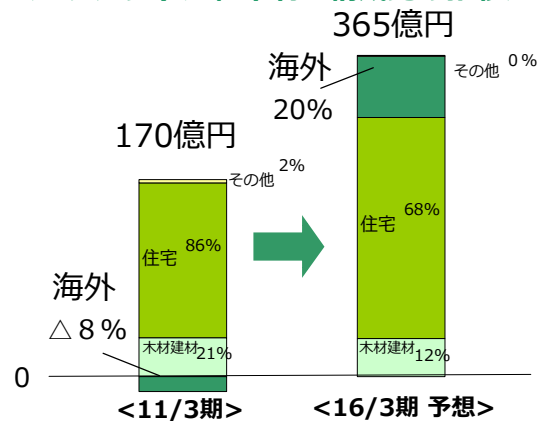
＜セグメント別売上高構成比の推移＞



＜11/3期＞

＜16/3期 予想＞

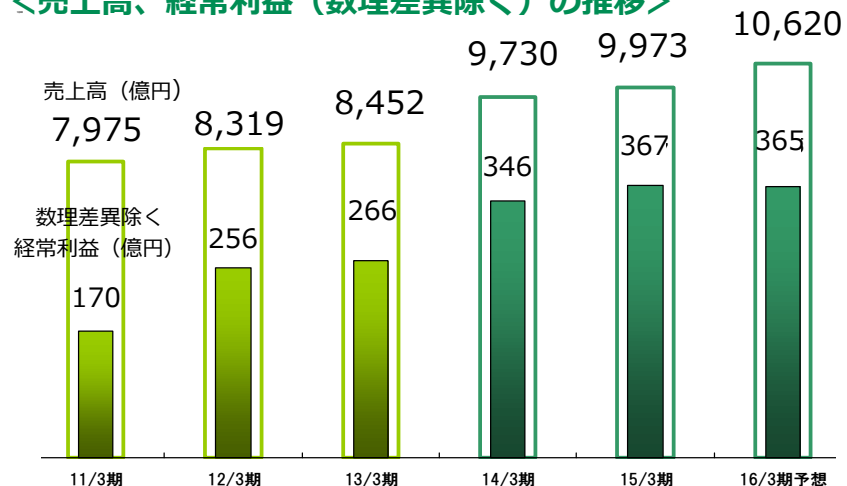
＜セグメント別経常利益構成比の推移＞



＜11/3期＞

＜16/3期 予想＞

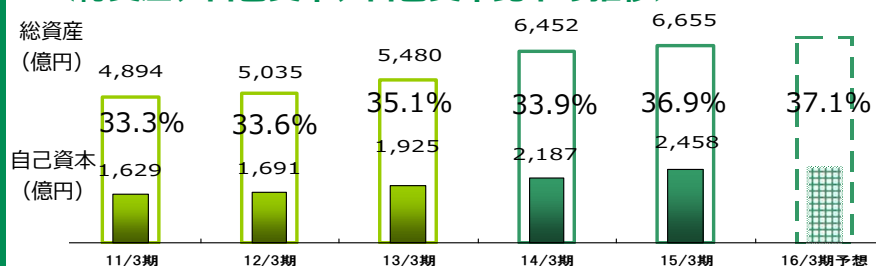
＜売上高、経常利益（数理差異除く）の推移＞



17/3期以降
新たなステップへ

経常利益200億円体制の確立 → 売上高1兆円、300億円体制の確立

＜総資産、自己資本、自己資本比率の推移＞



国内事業について①主力事業

木材建材事業はシェア拡大、 戸建注文住宅事業は高付加価値化を中心に受注積み上げを図る

木材建材事業

- チップ等のバイオマス燃料やリフォーム資材の拡販、物流システム等の機能提供強化を通じて、国内でのシェアアップを図るとともに、海外流通事業の事業拡大も推進。
- 国内林業活性化にも寄与する、アジア向けの国産材原木の輸出強化にも注力。



<国産材原木の輸出>



<バイオマスエネルギー資源>

戸建注文住宅事業

- 「高付加価値化」と「シェアアップ」をキーワードに受注の積み上げに注力。
- 「邸宅設計プロジェクト」の展示場を通じて、当社の技術力、設計力、施工力を訴求し、「住友林業の家」の上質な空間を体感して頂く。
- 「ツインボルトコラム」の開発や「BF-耐火」といった都市型戦略商品の投入により、都市部でシェア拡大を図る。



<ツインボルトコラム>



<八事展示場（内観）>



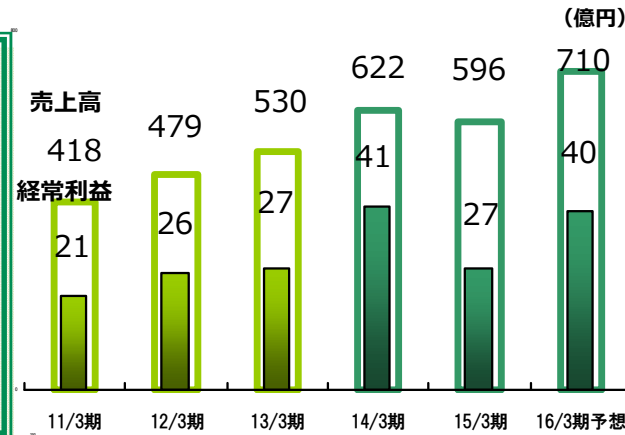
<駒沢第一展示場（内観）>

国内事業について② 成長事業

リフォーム事業、賃貸住宅事業は営業力強化により、業績拡大を図る

リフォーム事業

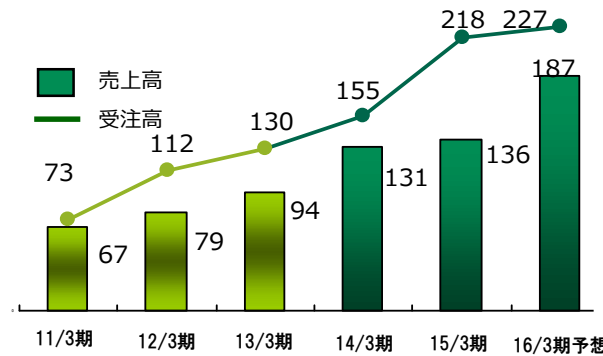
- リフォーム事業は消費税増税後の反動減により、15/3期は苦戦したものの、16/3期から再び売上高1,000億円を目指し事業拡大を図る。



<旧家リフォームの実例>

賃貸住宅事業

- 好調な市場環境と、営業強化により、賃貸住宅事業の業容を更に拡大。



4階建て賃貸併用住宅
「ForestMaison (フォレストメゾン) B F-耐火」

木化事業、バイオマス発電事業、高齢者介護ビジネス

- 新たな分野の事業として木造化・木質化を推進する木化事業、バイオマス発電事業等に引き続き取り組む。
- 今期は高齢者介護ビジネスも拡充し、デイサービス事業に進出。



<デイサービス施設 (デイフォレスト溝の口)>



<木化事業 (飲食店舗)>

海外事業について

M&Aの効果等により、収益力は順調に伸びており、主力事業の一つへと成長させる

製造事業

- 為替影響等、地域および企業毎の課題あり。
- グループ全体の木質ボード生産量は増えており、今後は東南アジアでのマーケティングを強化しコスト競争力をつけることが課題。
- 高品質と高付加価値を活かした市場戦略を推進。



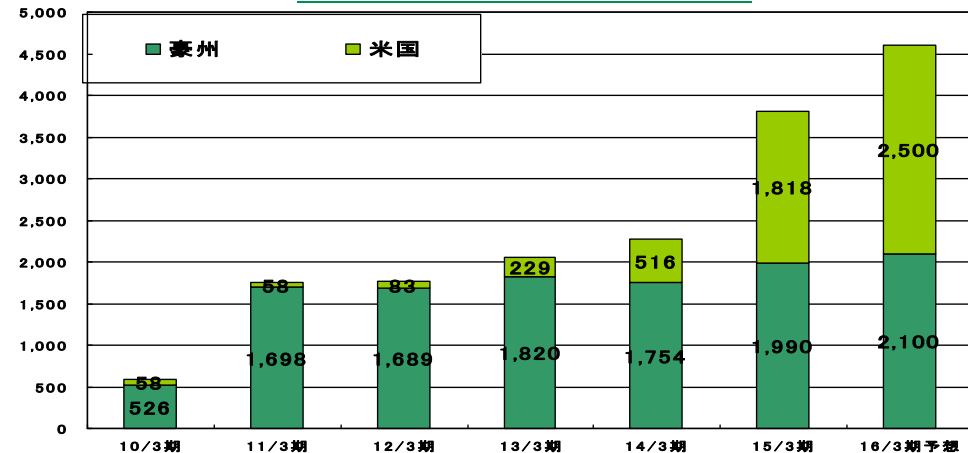
<ベトナムPB製造事業>

住宅・不動産事業

- 米国住宅事業は、M&Aの効果、好調な市場環境の後押しにより、今期は2,500棟の販売を計画。
- 16/3期販売計画を達成することで、17/3期における米国全体で年間3,000棟の販売目標達成に目処をつける。
- 今期の豪州は2,100棟の販売を計画
- 従前の事業エリアである、ヴィクトリア州、クィーンズランド州に加え、ニューサウスウェールズ州での事業も推進し、年間3,000棟の販売体制確立に向けた事業基盤を整備。

(棟)

【米国および豪州の販売棟数推移】



<シアトルのモデルハウス>



<テキサスのモデルハウス>



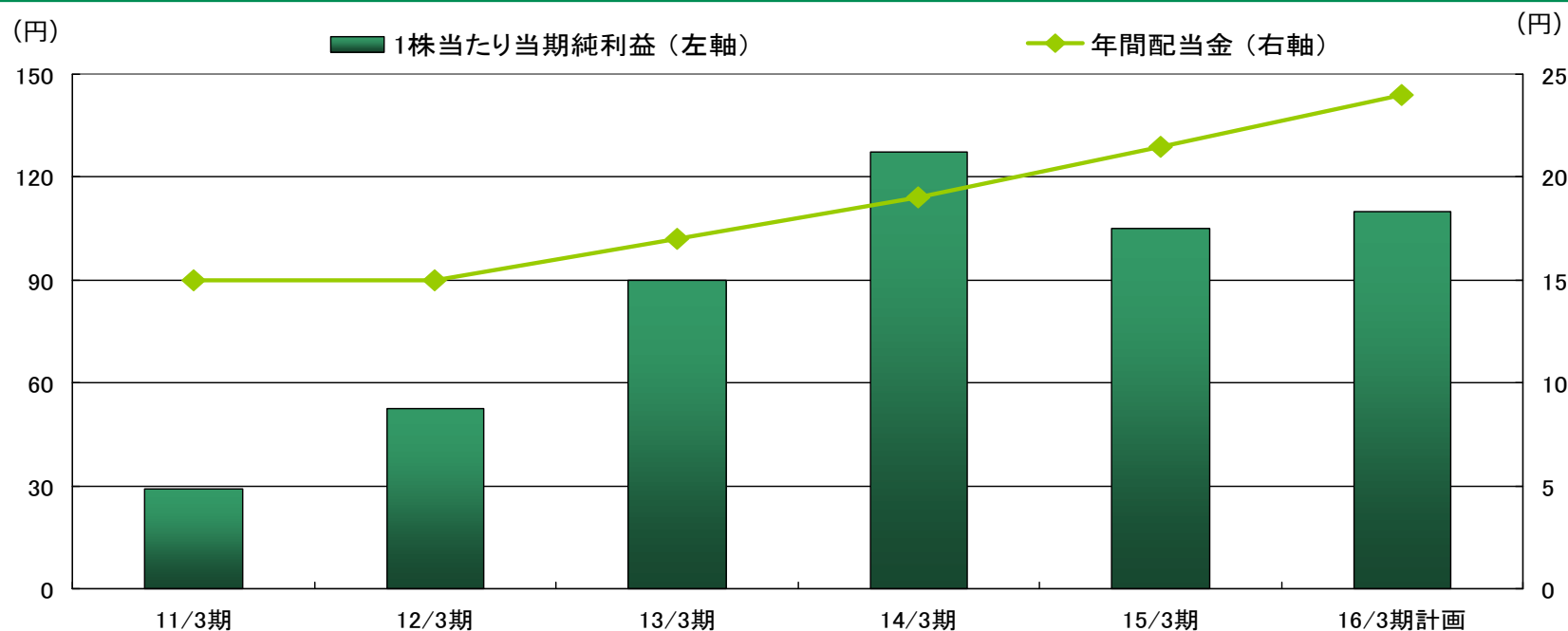
<豪州のモデルハウス>

株主還元について

増配の上、安定配当を継続

株主還元策

- 中期目標『売上高1兆円、経常利益300億円体制』の達成に一定の目処がついたことから、2015年6月の期末配当から増額。
- 配当については、今後も収益体質の強化を図るとともに、経営基盤、財務状況及び投資計画等のバランスを総合的に勘案しつつ、利益状況に応じ継続的かつ安定的に行ってまいります。



木と生きる幸福

住友林業グループ

ご清聴ありがとうございました。